



第401号 2020年5月 名古屋教区広報委員会 「教区ニュース」編集部 電話(052)935-2223 FAX(052)935-2254 印刷所 株式会社 荒川印刷 毎月第1日曜日発行

教区の皆さま 新型コロナウイルスへの名古屋教区への対応

（松浦司教からの指示とお知らせのまとめ）

新型コロナウイルス対策のため東京をはじめとする7都府県を対象に4月7日、緊急事態宣言が出されたのに応じる形で、名古屋教区では4月9～11日の過越の聖なる三日間の典礼をはじめ、12日の復活の主日以降の主日と平日のすべての公開のミサが中止とされた。緊急事態宣言が出されている間、この状態はつづく見込み。

松浦司教から各小教区あてに出されるこれらの指示はもっぱらファックスによる。4月号では2面「新型コロナウイルス対策(4)」(3月16日付)を紹介したが、その後、「対策(5)」(3月21日付)から「対策(8)」(4月6日付)、さらに「新型コロナウイルス関連のお知らせ(4月9日付)」まで出されている(4月21日現在)。

この間、状況の変化に合わせて対応が厳しさを増して現状に至っている。

以下、本紙印刷前での最新のお知らせとなる「対策(8)」と「新型コロナウイルス関連のお知らせ」の内容を整理してお伝えする。

1. 日本で緊急事態宣言が出されている期間中は、その適用範囲がどこであれ、主日、平日すべての公開ミサを中止とする。

*司祭は必要に応じて信徒が秘跡を受けられるように配慮する。

*必要と思われるミサ、葬儀、結婚式などは慎重に行うこと。

*各小教区では、教会に集まらなくても、心を一つに祈り、共に歩んでいると感じられるよう配慮をする。

特に、教会に来られない高齢者や病者が孤独の中に置かれないうように。

2. 聖なる過越の三日間、復活の主日のミサも中止。司祭は今年に限り、会衆のない共同司式ミサをふさわしい場所ですることが出来る(パチカン秘跡省教令)。

*聖なる三日間と復活の主日、富山教会で司教と富山教会司祭団が共同司式する典礼をYouTubeでライブ配信する。

*これらは録画でも見られるが、できれば同時刻にライブで心を合わせてみるよう、パチカンからも勧められている。

3. 4月8日に予定されていた聖香油ミサおよび金銀祝は延期。

*日程は状況を見て後日発表。

「新型コロナウイルス関連のお知らせ(要旨)」

1. 「対策(8)」についての確認

①日本で緊急事態宣言が出ている限り「適用範囲がどこであつても」、5月6日まではすべての公開ミサは中止とする。その後については4月下旬に伝える。

②司祭の司牧的配慮について。個人的なゆるしの秘跡、聖体拝領、臨終や重篤な病気の際には、医療関係者の指示に従うことを前提に、司祭はできるだけ信徒の要望に応える。ただし、主日の一定時間の聖体拝領はいつたん中止とする。

2. 新型コロナウイルス関連文書(名古屋教区HP参照)について

①典範秘跡省教令「感染症の世界的流行の時期におけるミサについて」およびミサ式次第の活用を。

②司教協議会会長談話が発表された(2面に掲載)。「感染症に苦しむ世界のための祈り」を信徒にも伝える。

3. 聖金曜日に行う「聖地のための献金」は2020年9月13日(日)に延期する。フランススコ教皇認可による。

世界召命祈願の日 5月3日

近年、司祭や修道者の減少、高齢化が進んでいます。特に「世界召命祈願の日」には、司祭、修道者への召命に1人でも多くの方が応える事ができるように祈りが捧げられます。

教皇フランシスコ 武力紛争停止と 人道支援を呼びかける

2020年3月29日「お告げの祈り」で

教皇フランシスコは3月29日四旬節第5主日の正午「お告げの祈り」の際、新型コロナウイルス感染症拡大の危機的状況にある世界に向けて、あらゆる武力紛争の全面的即時停止と、とくに弱い立場の人々を念頭に人道支援に連帯して取り組むことを、次のように呼びかけた。

.....

兄弟姉妹の皆さん、数日前、国連事務総長が新型コロナウイルス(COVID-19)の際限のない感染拡大による現在の危機的状態を受けて、「世界のあらゆる地域で即時停戦」を呼びかけました。これは、全面的な停戦を求めるアピールです。

わたしは、このアピールに心から共感し、人々の状況に目を向けるよう皆さんに呼びかけます。

このパンデミックに共

世界広報の日(献金) 5月17日

福音宣教は私たちの使命です。「世界広報の日」は広報の重要性を再認識し、広報を通して社会と人々との絆に因りていくのか、宣教について反省し、祈り、献金を捧げる日です。

司祭評議会(2/27)報告

第148回名古屋教区司祭評議会が2月27日に行われ、12月12日に開かれた臨時司教総会について松浦司教から報告があったほか、7件の審議が行われた。

【審議事項】①信徒の聖体奉仕者に関して2006年のガイドラインを確認。②新司祭・転入司祭対象の研修会を6月4日、カノッサ修道会養成の家(名古屋市中区)で実施。③「小教区宣教司牧評議会規約作成のための指針」について検討。司教から送付することを確認。④司祭評議会新議長に平田豊彦神父を確保。常任委員補欠選挙でインセン神父を選出。常任委員は松浦司教のほか、平田(豊)、平田(政)、早川、プリヨ、インセンの計6名(敬称略)。⑤名古屋教区「性虐待、性暴力、ハラスメント防止決意表明」発表を決議。⑥外国人の集まりを「(人)共同体」ではなく「(人)グループ」と呼称することを確認。⑦名古屋教区創設100周年啓発ポスターと取り組みを審議。6月の司祭評から具体的に取り組むこととなった。

【司教総会の報告から(主なものを抜粋)】高山石近の列聖担当が東京管区から大阪教区に移行した▼ジェンターの問題への対応について教皇庁教育省からメッセージ「神は人を男と女に創造された」教育におけるジェンターの課題に関する対話の道に向かっている▼カトリック中央協議会HP(2020/02/27)が出された▼日本司教団は「すべてのいのちを守るための月間」を設定する。9月1日から10月4日聖フランシスコ(アシジ)修道者記念日まで▼戦後75年にあたる今年、6月23日沖繩慰霊の日に司教団として那覇教区平和行事に参加し、沖繩で司教団平和句間メッセージを発表する▼教皇来日1周年を12月9日に記念する。「教皇訪日を受けてのアンケート」(カトリック中央協議会HP)に協力する▼長崎教区中村倫明補佐司教、部落差別人権委員会と諸宗教部門の担当司教に就任▼日本司教団主催による司祭の生涯養成プログラムが検討中▼中央協議会の決算報告。教皇来日費用は約11億円。カトリック会館のメンテナンスに關して移転も検討中▼教区立神学院が福岡と東京に再び分離。東京の2020年度は、神学生22名、聴講生5名、養成者3名、名古屋教区は分担金60万円と新規入学した神学生(近藤真理夫さん)一人分の養成費100万円を一粒会が負担する。養成期間も変更となり、これまでの6年間に1年予科が加わる。また卒業後に各教区で助祭に叙階される。

教区ホームページ	
福音のひびき	
5月の説教者	
3日	復活節第4主日 ベラルタ・アンヘル (三河カトリックセンター)
10日	復活節第5主日 平田 豊彦 (布池教会)
17日	復活節第6主日 古川 利雅 (日比野・八熊教会)
24日	主の昇天 ヴァク・ボグスワフ・ジグムント (安城教会)
31日	聖霊降臨の主日 石脇 慶 (名古屋教区)

信徒協賛金 5月以降に延期

復活節第2主日(神のいつくしみの主日)は名古屋教区では信徒協賛金の日となっている。しかし、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため小教区の主日のミサも中止となった。これに伴い信徒協賛金は5月以降に延期して行うこととなった。献金日については信徒使徒職協議会から後日連絡がある。

カリタスジャパン 「四旬節・愛の献金」 受付延長

新型コロナウイルス感染症対策のため、四旬節のほとんどの主日が公開ミサを行えない状況となり、今年の四旬節・愛の献金は大幅な減額となる。ことが危惧されている。カリタスジャパン事務局からは四旬節後にも献金に協力をとの要請が名古屋教区事務局にあった。名古屋教区としては「四旬節・愛の献金」を5月末日まで受け付けることになった。

世界が今のような状況にあるからこそ、弱い立場の人々、苦難の中にある人びとのために、いっそうの協力をしたいものである。

名古屋教区本部事務局の 新型コロナウイルス対策

名古屋教区本部事務局も日本政府の緊急事態宣言に応じて、おおむね次のような新型コロナウイルス対策をとることになった。

1. 名古屋教区本部事務局の窓口受付は5月6日まで休止する。
2. 窓口休止期間中、小教区との連絡はメールかファックスで行う。
3. 事務取扱時間は午前10時から午後4時までとする。
4. 会計台算小教区への決算書送付は6月以降になる(従来は大型連休前後)。早めに必要な小教区には試算表を送ることで対応する。

司教司式主日ミサの ライブ配信継続

過越の聖なる三日間、復活の主日に実施された松浦司教司式による典礼のライブによる動画配信が、4月19日復活節第2主日以降も三分の間、継続されることになった。毎週日曜日午前10時から、名古屋教区ホームページで視聴できる。小教区での公開ミサは行われず、司教は各地の女子修道院などでミサを司式する予定。

兄弟姉妹の皆さん

新型コロナウイルス(COVID-19)の際限のない感染拡大による現在の危機的状態を受けて、「世界のあらゆる地域で即時停戦」を呼びかけました。これは、全面的な停戦を求めるアピールです。

わたしは、このアピールに心から共感し、人々の状況に目を向けるよう皆さんに呼びかけます。

このパンデミックに共

兄弟姉妹の皆さん

新型コロナウイルス(COVID-19)の際限のない感染拡大による現在の危機的状態を受けて、「世界のあらゆる地域で即時停戦」を呼びかけました。これは、全面的な停戦を求めるアピールです。

わたしは、このアピールに心から共感し、人々の状況に目を向けるよう皆さんに呼びかけます。

このパンデミックに共

兄弟姉妹の皆さん

新型コロナウイルス(COVID-19)の際限のない感染拡大による現在の危機的状態を受けて、「世界のあらゆる地域で即時停戦」を呼びかけました。これは、全面的な停戦を求めるアピールです。

わたしは、このアピールに心から共感し、人々の状況に目を向けるよう皆さんに呼びかけます。

このパンデミックに共

新型コロナウイルス 感染拡大のただ中で

日本カトリック司教協議会会長 談話

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を目の当たりにして、日本のカトリック教会の皆様といくつかのことを共有したいと思えます。

2. 人間の偉大さと脆さを再認識し、神への信頼を新たに

1. 神に祈る

新型コロナウイルスは、2002年のサーズ(SARS)や2012年のマーズ(MERS)とは比較にならない、世界的な感染拡大と死の脅威をもたらしています。わたしたちは、感染者亡くなられた方々、医療従事者、為政者、経済的に大きな打撃を受けた方々など、すべての人々に必要な助けと力が与えられるよう、主キリストを通して父である神に祈りと願いをささげましょう。

3. 信仰生活を見つめ直す

新型コロナウイルスの感染拡大の予防と阻止のために種々の分野の活動が制約されて不自由な生活を余儀なくされていますが、そのような中で多くの人々が家庭生活、人間関係や自然との関係について新しい気づきや発見をしていることは注目に値することだと思います。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大によって、今、大きな困難の中にある世界を顧みて下さい。病に苦しむ人に必要な医療が施され、感染の終息に向けて取り組むすべての人、医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。亡くなった人が永遠の天国に迎え入れられ、生きることのない安らぎに満たされましますように。

希望の源である神よ、わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、世界のすべての人と助け合って、この危機を乗り越えることができるようお導きください。わたしたちの主イエス・キリストによって、アーメン。希望と慰めのもとである聖マリア、苦難のうちにあるわたしたちのために祈りください。

(2020年4月3日 日本カトリック司教協議会認可)

を離れるなら何もできないというところにとめて、何ものをも恐れずひたすら神に信頼を置き、救いへの希望を持ち続けたいと思えます。

4. わたしたちがしなければならぬ努力

基本的な感染予防策として、次のことが勧められていますので、これらが大変重要です。(1)石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒などを丁寧に行う。「主の祈り」「アヴェ・マリアの祈り」「栄唱」を唱えながら手指を洗う、カトリック的な手洗い(推奨する)。(2)ドアのノブや手すりなどを手で触れ、その手で口や目に触れることで感染する可能性があるといわれているので注意する。(3)集団感染を避けるために、次の3つのことが同時に重ならないように注意する。

「新しい創造が始まったこと」(二コリント5:17参照)が祝われます。この日は、感謝に満ちた礼拝(ミサ)を行って、世界が造られた最初の日を思い起こす日です。また、キリストが栄光のうちに来られ(使徒言行録1:11・一テサロニケ4:13・17参照)、すべてのものが新しくされる(黙示録21:5参照)「終りの日」を、熱望する希望をもって待ち望む日です」(4)。主の日に感謝の祭儀に参加して、神のこ

人々のいのちをここにかけて、適切な行動をとるようにならねばなりません。感染した方々に対して決して非難や差別などの言動に走ることをないように注意し、むしろ彼らに寄り添う気持ちを大切に祈りましょう。

編88などを用いて祈ることをお勧めします。1) エフェソ1:4、創世記1:26、同1:28; 詩編8:7; シラ17:2、詩編8:5; 14:3参照。2) 創世記3:19; 詩編90:3; 103:14; 104:29、同90:5; 6、同39:7; 144:4参照。3) ヨハネ15:5、詩編27:91; 118参照。他にも詩

注 編88などを用いて祈ることをお勧めします。1) エフェソ1:4、創世記1:26、同1:28; 詩編8:7; シラ17:2、詩編8:5; 14:3参照。2) 創世記3:19; 詩編90:3; 103:14; 104:29、同90:5; 6、同39:7; 144:4参照。3) ヨハネ15:5、詩編27:91; 118参照。他にも詩

4) 聖ヨハネ・パウロ二世 教皇使徒的勅告「主の日——日曜日の重要性」(カトリック中央協議会、1999年) 1。この他にも、次のような良書の読書をお勧めします。教皇フランシスコ回勅「ラウダー・シ」ともに暮らす家を大切に(カトリック中

央協議会、2016年) 使徒的勅告「喜びに喜べ——現代世界における聖性」(カトリック中央協議会、2018年) 日本カトリック司教団「いのちへのまなこ」【増補新版】(カトリック中央協議会、2017年) 5) 「カトリック的な手指洗い」は韓国のカトリック教会で推奨されている

すべての人の心を大切にする

濃尾ピース9の会主催 松浦悟郎司教講演会

松浦悟郎司教による「平和をつなぐ」と題した講演会が2月15日、岩倉市生涯学習センターで開かれた。

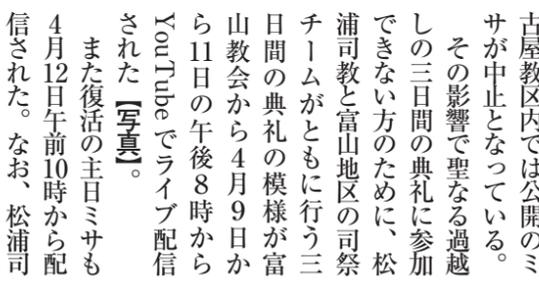
松浦悟郎司教による「平和をつなぐ」と題した講演会が2月15日、岩倉市生涯学習センターで開かれた。地元岩倉市をはじめ、遠くは岐阜県や三重県などから約60人の参加があった。信徒ばかりではなく一般市民が多く参加した。会場では手話通訳もあった。松浦司教は、まず昨今使われることの多い「○

聖なる三日間の典礼 富山教会より中継

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために「緊急事態宣言」が発せられている事に伴い、名古屋教区内では公開のミサが中止となっている。その影響で聖なる過越の三日間の典礼に参加できない方のために、松浦司教と富山地区の司祭チームがともに行う三日間の典礼の様子が富山教会から4月9日から11日の午後8時からYouTubeでライブ配信された【写真】。また復活の主日ミサも4月12日午前10時から配信された。なお、松浦司



松浦悟郎司教による「平和をつなぐ」と題した講演会が2月15日、岩倉市生涯学習センターで開かれた。



富山教会より中継された聖なる三日間の典礼の様子。

すべての人の心を守るため、

二〇二〇年四月十二日 復活の主日 日中のミサ説教(要約)

主との出会いの喜び

信仰の目で人生振り返る中に

カトリック名古屋教区

司教 ミカエル 松浦 悟郎



中にいたのです。

皆さん、主のご復活おめでとございます。新型コロナウイルス対策の大変なときで教会に行けない方もおられると思いますが、私たちがどこにいても、どのような状況であつても力強く主の復活を共に祝いたいと思います。毎年、復活の主日のミサにはヨハネ福音書が朗読されます。ヨハネはイエスの復活の出来事を象徴的な表現、あるいは言葉に意味を持たせて伝えようとしています。週の初めの日、マグダラのマリアは、墓に向かっていたが、それは遺体に香油を塗るためでした。悲しみのうちに死んだイエスに会いに墓に向かっていたのです。ヨハネはそのことを、「朝早く、まだ暗いうちに」と書くことでそれを表現しています。ヨハネはいつも神が分からない状態を「夜」とか「暗い」という言葉を使います。マグダラのマリアは、まさに暗闇の中

にいたのです。

そのあと、ヨハネは「見る」という言葉を使って復活の出来事を信仰へとつないでいきます。日本語では同じ「見る」ですが、原語のギリシャ語では異なる言葉を使っているのです。墓に着いたマリアは、墓から石が取りのけてあるのを「見て」弟子たちに伝えに行きます。その「見て」は、普通に肉眼で物を見るときという意味です。この目で見えたのは、墓の石がどけてあるということとです。マリアは意味が分からないけれど、何かが起こったと胸騒ぎを起したことでしよう。

れません。

今日福音では読まれています。そのあとマリアはもう一度、身をかがめて墓の中を「観る」のですが、前とは異なる「観る」という言葉を使っています。それは、日本語で言うなら「じっと観る」、すなわち心で観ようとしているのです。はじめは単に現象を見たの事実の奥には何があるのだろうかと思いがくらくらしているのです。もしかしたら、イエスの言葉が思い出そうとしながら、祈る思いで観たのかもしれない。

出来事のはじめに「まだ暗いうちに」と書くことで、イエスとの出会った時のよるこびを、夜が明けていく中で表現しようとしたのでしよう。

復活したイエスと出会ったマリアは、最後に弟子たちの所に行つて「私は主を見ました」と告げます。その「見た」は、人々に告げる信仰宣言の言葉なのです。このように、イエスと出会うとき、喜びのうちに弟子たちのところに告げに行くマリアを想像します。その時には、夜が明けていたことでしょうか。マリアは背後からのまばゆいばかりの朝日の光を喜びながら「主は復活された」と喜びおどる心で走つて行つたのです。ヨハネは、

2020.4.12.

Easter Sunday homily

Catholic NAGOYA Diocese Bishop Michael Matsuura Goro

HAPPY EASTER, every one! Although many of us can't come to the church tonight due to the Virus outbreak preventive measures, I think we all should still celebrate Easter no matter where we are and under any circumstance. On Easter Sunday every year, the Gospel reading is always from Gospel of John, who has narrated the story with deeply symbolic language and images. On the first day of the week, Mary Magdala went to the tomb, carrying balm. She wanted to reach and re-embalm Jesus' body - which had been hurriedly put on the tomb after His horrible death on the Cross. John wrote, "Early in the morning, when it's still dark..." The two words "Dark" and "Light" in John's writing always symbolize the condition where God IS or IS NOT! Mary Magdala, on her way to the tomb, was still in 'darkness' because she has not

Mary once again back at the tomb. She stooped down and looked inside - John uses here another word for 'SEEING' The seeing of Mary now is like 観る in Japanese, an action that goes on in our mind. Before a phenomenon, we see it first just outwardly, but if we continue we start exploring what is behind in the background, in order to truly understand it. Perhaps in that phase of seeing, words of Jesus (that Mary had heard before) started to resurge in her mind, pulled her into a kind of prayer. When she met a man in the garden, initially she could not recognize that was Jesus - but she realized when she heard Jesus calling her name, "Maria!" For that's how He had always call her when He was alive. We too, encounter the Resurrected Christ not in a nebulous and mysterious way. But we met Him in our daily life, when He shared with us our joys and our sorrows - however we would only understand when we look back, in hindsight. Again, having at last recognized Jesus, Mary would ran to tell the apostles, this time undoubtedly with radiant joy. She told them, "I saw Him!" Her word now is at the same time her profession of faith and her evangelizing announcement. Let's imagine how great the joy of Mary was. At that moment, the morning is dawned. Mary ran dancingly with the morning's sunbeam shined on her path. What a contrast it is from the 'darkness' in the story's beginning. We are believers in Christ's resurrection. If our faith truly brings us joy, we would want to hurry go on and share it with our fellows. In a Hymn of Resurrection, Mary is asked, "Mary, what did you see on the way? Please let us know", and her answer is, "I saw the tomb of Our Lord emptied up. He has resurrected and got out of it. He is living in glory now." So, what do we see in our life of faith? Let's look back to our own lives with the light of faith. You would recognize how often Jesus calls you through the events, and how lovingly He has called your name - like He has called, "Maria!" Let's open our doors, step out and spread to the world what we saw and believed - that's JOY!

seen the Resurrected. Then, John uses the word "SEE" in connection between the Facts and the Faith. In Japanese, we have 見る (miru) in both senses, but in original Greek they are different. At the tomb, Mary saw the stone already be rolled aside, and she came to tell the apostles. In the usual sense, 'to see' means to see something with your naked eyes. By her eyes, Mary saw the rolled away stone but she hadn't understood yet - and that greatly disturbed her. If we continue to read John's Gospel beyond the excerpt today, we find



2020.4.12.

O Domingo da Páscoa

Bispo de Nagoya Michael Matsuura Goro

Prezados irmãos e irmãs; Feliz Páscoa! Certamente têm bastante gente que não consegue vir a Igreja por Coronavírus e estão sofrendo por falta de Eucaristia. Mas podemos festejar a Ressurreição do Senhor com muita alegria em qualquer lugar e momento.

O evangelista João escreveu sobre a ressurreição de Jesus com as expressões mais simbólicas e as palavras mais significativas. S.João escreveu “No primeiro dia da semana, Maria Madalena foi ao túmulo de Jesus, bem madrugada, quando ainda estava escuro, e viu que a pedra tinha sido retirada”. Quando João escreve [noite], [treva], significa que não tem o encontro com Deus. Maria justamente estava ainda na treva e tristeza. Depois Maria viu o túmulo; este verbo [ver] lingua grega significa só [ver alguma coisa].

No outro trecho Maria viu outra vez o túmulo de Jesus. E esta vez significa observar com os olhos do coração. Talvez Maria viu o dentro do túmulo querendo reconhecer alguma coisa de Jesus. Isto é a oração dela.

Quando Jesus ressuscitado apareceu a Maria e chamou ela de [Maria] com o carinho, logo depois disso ela reconheceu que Ele é Jesus. Assim o encontro com Jesus ressuscitado não é muito místico, sim é bem normal. O Jesus ressuscitado sempre acompanha conosco na alegria e na tristeza. A Maria que encontrou Jesus ressuscitado foi aos discípulos para anunciar e disse, “Vi o Senhor”. este verbo [vi]

é a palavra de anúncio da sua fé.

Quando Maria correu aos discípulos para anunciar, o sol está no alto e ilumina a ela, não está mais na treva e nem no escuro,

Nós estamos acreditando em Jesus ressuscitado. E esta fé nos dá a alegria de anunciar aos outros. Na Sequência antes do Evangelho canta o que Maria viu. “o túmulo aberto”, “a glória do Senhor ressuscitado”, “o anjo anunciador”, “o sudário deitado no chão”. E agora o que nós vimos em nossa vida com fé? Mais uma vez vamos observar a nossa vida com fé. Nós vamos descobrir muitas graças que Jesus está chamando cada um de nós.

Abrindo a porta vamos sair ao mundo para anunciar tudo o que nós vimos, cremos, alegramos.

2020.4.12.

Bài giảng Chúa nhật Phục sinh

Đức giám mục Michael Matsuura Goro

CHÚC MỪNG PHỤC SINH tất cả anh chị em! Tuy rằng do sự hoành hành của nạn dịch đa số chúng ta không thể đến nhà thờ, nhưng tôi nghĩ là chúng ta vẫn hân hoan đón mừng Phục sinh dù ở đâu, trong bất kỳ hoàn cảnh nào. Trong cả ba năm của chu kỳ Phụng vụ, chúng ta đều đọc Tin Mừng thánh Gioan trong thánh lễ chính ngày Phục sinh. Sự kiện phục sinh của Chúa được Gioan kể lại với hình ảnh và ngôn từ có tính biểu tượng rất sâu. Ngày thứ nhất trong tuần, Maria Magdala đi ra mộ mang theo dầu thơm để ướp lại xác Chúa, đã được táng tạm vội vã sau cái chết nhục nhã trên thập tự. Gioan ghi, “Sáng sớm, khi trời còn tối!” Hai từ “Sáng” và “Tối” trong Phúc âm Gioan luôn ám chỉ tình trạng Thiên Chúa có hay vắng mặt! Maria Magdala, trên đường ra mộ, vẫn còn trong ‘bóng tối’ vì chưa gặp Đấng phục sinh. Tiếp đến, Gioan dùng từ “Nhìn thấy” để mô tả sự kiện xảy ra và đức tin. Trong tiếng Nhật, cả ‘nhìn’ và ‘thấy’ đều là “miru” - nhưng trong nguyên ngữ Hy Lạp thì khác. Khi đến mộ, Maria thấy tảng đá đã lăn qua một bên, và bà đi báo tin cho các tông đồ. Từ ‘thấy’ thông thường có nghĩa là trông thấy bằng mắt thịt. Bằng mắt trần, Maria thấy tảng đá đã dời đi mà chưa hiểu điều đó có nghĩa gì - nhưng hẳn trong lòng bà có xáo động lớn. Sau đó, (ở phần tiếp theo đoạn trích hôm nay) Maria sẽ một lần nữa cúi xuống và nhìn vào trong mộ, từ ‘nhìn’ ở đây khác với từ ‘nhìn’ lúc trước. Lần này, Maria ‘nhìn’ như từ 観る trong tiếng Nhật, nói về một động từ xảy ra trong tâm trí của ta. Thoạt tiên, ta nhìn thấy một hiện tượng gì như có đó, sau đó mới nhìn mà suy xét xem có gì ở phía sau hiện tượng để hiểu được nó. Có lẽ trong lúc nhìn lại này, những lời Chúa nói trước kia trở lại trong tâm trí Maria, và quá trình nhìn trở nên như cầu nguyện. Thấy một người đàn ông trong vườn, Maria chưa nhận ra đó là Chúa Giêsu. Nhưng

bà nhận ra ngay khi Chúa gọi tên mình. Vì đó là cách Chúa luôn gọi bà khi Người còn sống. Gặp gỡ Chúa Kitô Phục sinh không phải là một kinh nghiệm gì đó huyền bí bất khả nghi. Chúng ta gặp Người trong đời sống thường nhật, Người chia sẻ với ta mọi vui buồn nhưng ta chỉ hiểu rõ về sau, giống như Maria vậy. Cuối cùng, sau khi nhận ra Chúa, Maria sẽ quay lại với các tông đồ và báo cho họ, “Tôi đã thấy Chúa!” Từ “見た” của Maria ở đây là lời tuyên tín và rao truyền đức tin đến mọi người. Hãy thử hình dung xem, Maria đã báo tin ‘thấy Chúa’ cho các môn đệ trong niềm vui như thế nào. Thời điểm đó, bình minh đã lên. Bước chạy của Maria tung tăng rộn ràng với ánh ban mai bám theo sát gót. Niềm vui được Gioan diễn tả trong tương phản với “bóng đêm” lúc ban đầu. Chúng ta là những người tin vào Chúa Phục sinh. Nếu đức tin thực sự là niềm vui, hẳn chúng ta sẽ sốt sắng muốn chia sẻ nó cho anh chị em mình. Lời ca Tiếp Liên lễ Phục sinh, chúng ta hát “Bà Maria ơi, trên đường bà thấy những gì, xin kể cho chúng tôi nghe!” Và bà đáp, “Tôi là tôi đã thấy nắm mồ của Đức Ki-tô. Người đã sống lại và đã ra khỏi mồ. Người đang là đang sống vinh quang sống vinh quang...” Còn chúng ta, chúng ta thấy gì trong đời sống đức tin của mình? Hãy nhìn lại đời sống trong con mắt đức tin. Bạn sẽ nhận ra bao lần Chúa đã gọi bạn trong các biến cố cuộc đời, đã gọi tên bạn cách triu mến như Người đã gọi Maria! Nào chúng ta hãy cùng mở rộng cửa, bước ra và kể cho thế giới biết điều mình đã thấy, đã tin, và Vui Mừng!

2020年度 正義と平和委員会学習会①(全4回)
 テーマ:『愛は憎悪に打ち勝つ』

今日の世界は権力者による「今だけ、金だけ、自分だけ」(19年度テーマ)の政治が、さらに暴走し、憎悪を煽り分断と対立が世界を覆っています。また、環境は不可逆的に破壊され、弱い立場の人々の生命、人権が無視され奪われています。自由・民主化のために闘う香港の若者たち、大人の無責任により未来喪失の危機感を持った若者たちが気候正義を求めて立ち上がっています。また、コロナウィルスの感染が全世界に猛威を振るい、今こそ、一致協力して立ち向かわねばなりません。

カトリック者の私たちは聖公会と共催で、教皇の呼びかけ、若者たちの声に応え、環境保全、生命・人権尊重、連帯の社会形成へ今すぐ一歩進むため、以下のように学習会を企画しました。

- 学習会① 第一回 「表現の不自由展から学ぶ」 池住義憲さん
 (表現の自由を守る市民の会呼びかけ人)
 5月16日(土) 13:30~16:00
 第二回 「日韓の対立から理解へ」 裴明玉さん(弁護士)
 8月22日(土) 13:30~16:00
 第三回 「愛は憎悪に打ち勝つ」 中野晃一さん(上智大学教授)
 10月17日(土) 13:30~16:00
 第四回 「弱い立場の人たちと生きる」 バングラデシュの人々を支える会
 2021年1月16日(土) 13:30~16:00
 場所 福信館 名古屋市東区葵2-6-29 カトリック布池教会東
 主催 カトリック名古屋教区正義と平和委員会
 Fax 052-935-7195
 問合せ (福信館気付)
 日本聖公会中部教区社会宣教部(名古屋市昭和区明月町2-28-1)
 日本聖公会中部教区センター内

学習会② 生命倫理を考える

講師:大沼淳一さん(原子力市民委員会)

近代科学技術の発達はとどまることを知りません。きらびやかな科学の未来が喧伝されている陰で、際限なき便利さと快適さを求める人々の思慮なき欲望、巨大企業のお金儲け主義と先端科学者たちの倫理なき研究心(実は富と名声をめざす本音に支配されつつ)、それらが混然一体となって、生命の根幹たる遺伝子が操作されたり改変されたりしつつあります。巨大製薬企業によって開発された農薬と遺伝子組み換え植物のセットが、人類の財産だった多様な栽培植物を絶滅させつつあります。ゲノム編集技術の登場はさらに恐ろしいパンドラの箱を開こうとしています。人の命を救うという名分のもとに行われている臓器移植の裏で、貧しい人々から金持ちへと臓器が売り買いされています。出生前診断によって、何らかの遺伝子疾患がある胎児の間引きも行われています。まさに、神をも恐れぬ科学技術の暴走です。

何とかしてこの流れに歯止めがかけられないのでしょうか。私たちの最後のよりどころは生命倫理です。全部で4回ほど、この問題について勉強していきたいと思えます。(大沼淳一)

第1回 「種の壁を超える病原ウイルス
 ~エイズの起源から新型コロナウイルスまで」
 日時 6月12日(金) 10:45~
 場所 福信館 名古屋市東区葵2-6-29(カトリック布池教会東)
 主催 カトリック名古屋教区正義と平和委員会 Fax 052-935-7195

クリスマス献金のお礼とご報告

待降節よりお願いいたしました「クリスマス献金」は、次のご厚志が集計されましたので、支援先と共に報告申し上げます。2019年度は教会・修道会・病院・幼稚園・個人の方々より44件1,151,990円をいただきました。ご協力、誠にありがとうございました。支援をさせていただいたのは下記の団体です。

支援先	支援金(単位・円)
福信館・炊き出し部	329,797
福信館建設	80,000
岐阜ダルク	50,000
名古屋ダルク	50,000
三河ダルク	50,000
名古屋マック	52,193
NPO 法人セカンドハーベスト名古屋	400,000
RASA ジャパン	30,000
愛知聖ルカセンター・国際こども学校を支援する会	60,000
いこいの家※	50,000
合計	1,151,990

※いこいの家とは、路上生活をされている人々のお昼間のつどいの家です。カトリック、プロテスタント、仏教の方たちが宗教を越え一緒に支援しています。後援会会長:フォンツ・マルセリーノ神父(鳴海教会担当)

教区カリタス福祉委員会
 〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15
 ☎052-852-1426 / Fax 052-852-1422

**故郷を奪われたメガソーラー建設地を見学
 〴〵いかに電気を作り出すかではなく、
 電気を使わないか**

化石燃料による地球温暖化や、特に日本ではフクシマ原発事故以後、脱原発への関心から、太陽光、風力などの再生可能エネルギーによる電力が注目され需要が高まってきた。環境に良く、また、買い取り制度による利益になるからと個人や企業が参入し、今や全国各地にでも屋根や屋上のソーラーパネル、海岸近くの休耕地や企業の敷地内にメガソーラーと呼ぶ大規模発電所(100万kW)を多く見かけるようになった。しかし、温室効果ガ

スの削減や脱原発には必要な再生エネルギーである一方で、内陸の里山や山林に造られたメガソーラーが自然破壊、住環境被害の大問題を生じさせていることはあまり知られていない。

メガソーラーが住民の反対の声を無視して建設され、「自然豊かな里山と静穏な暮らしが隣りに奪われ、環境破壊と健康被害地に変わってしまった」と訴える住民の声を聞き、その地を3月22日に訪れて現状を学んだ。半田教会の信徒の

一人が自分の故郷を奪われる危機感からメガソーラー建設反対運動に関与していたので、19年8月に正平委学習会で講演をしていたことがきっかけだった。現地では伊豆高原、四日市で同様な被害を受けて、反対運動が続いているグループの方や瀬戸の海上の森の保護活動している人たちが合流した。知多半島・東浦の地をリーダーの方の案内で歩いた。地域の人たちが「別世界」と言われるように、山林に囲まれ、棚田と畑

地も広がり、ため池と水路もあり、鳥のさえずりの聞こえる静かな地であった。その里山5分の2か所、2分の1の土地に各1メガワットのメガソーラーが建設された。景観が台無しになり動植物はすみかを追われてしまった。また、その最南端の一本基は大団地に隣接し、山林を伐採した斜面に造られたため、土砂崩れや洪水の危険にさらされている。また、パネルの熱により気温の上昇もあるという。終の棲家と思っていたところがいきなり公害と災害の危険な場所に変わったことを自分に置き換えると、住民の苦しみは察して余りある。住民への説明もなく許可した経産省、上げた声を無視した町、県、抗告棄却し

東日本大震災・災害支援金の報告

発災時よりカリタス福祉委員会へ振込まれました2019年度の支援金ご報告と2019年度の支援金先を報告させていただきます。暖かいご支援に心より感謝いたします!!

(振込手数料引去後の金額)

項目	2011.3.17 発災から 2020.2.29までの合計		2011.3.17 発災から 2020.3.31までの合計	
	単月明細 3/1~3/31	当月	2011.3.17 発災から 2020.3.31までの合計	当月
収入				
支援金総額(※)	31,521,520	542,050	32,063,570	542,050
収入合計	31,521,520	542,050	32,063,570	542,050
支出				
カリタスジャパンへ	11,805,367	583,484	12,388,851	583,484
カリタス南相馬ベース支援	1,779,450	350,000	2,129,450	350,000
いのちの光3.15フクシマ	110,000	200,000	310,000	200,000
福島被災地(狩浦神父活動)支援	300,000	200,000	500,000	200,000
大阪教会管区 東日本被災地支援	14,206,234	100,000	14,306,234	100,000
オールジャパン震災支援会議交通費	123,620	0	123,620	0
大船渡ベースへ車いす4台贈呈	123,200	0	123,200	0
大船渡ベースへピアノ贈呈	58,800	0	58,800	0
ベース支援ボランティア交通費補助	491,150	0	491,150	0
さいたま教区・災害支援金へ	1,000,000	0	1,000,000	0
福島移住女性支援ネットワーク	490,000	0	490,000	0
災害支援金口座へ	137,906	3,839	141,745	3,839
支出合計	30,625,727	1,437,323	32,063,050	1,437,323
単月・支援金残高	895,793		520	
支援金残高合計			520	

※※3月度に支援金のご協力いただいた小教区、個人(敬称略)
 布池教会、一宮教会、金沢教会、高蔵寺教会、鳴海教会、大嶋京子

★名古屋教区の支援金は
 カリタスジャパン災害支援、福島での原発被災支援活動されている団体を中心に支援しています。引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い致します。
 ・毎月の支援状況は名古屋教区報で報告。
 ・各ベースの震災支援状況は仙台教区サポートセンター活動日記のHPに掲載。
<http://caritasjapan.jugem.jp> <http://caritasjapan.jugem.jp>

口座番号 00820-5-137456
 名義 カトリック名古屋教区カリタス福祉委員会
 「東日本大震災・災害支援金」など募金の意向先を記入願います。

ご連絡・問合せ先
 カリタス福祉委員会
 電話 052-852-1426
 FAX 052-852-1422

よりよい未来をひらくため

〔祭〕祭日(祝)祝日(記)記念日
5月の教会暦
 2日(土) 聖アタナシオ司教教会博士(記)
 3日(日) 復活節第4主日
 10日(日) 世界召命祈願の日
 14日(木) 復活節第5主日
 17日(日) 聖マチア使徒(祝)
 24日(日) 復活節第6主日
 26日(火) 世界広報の日(献金)
 31日(日) 主の昇天(祭)
 聖霊降臨の主日(祭)
 聖フィリポ・ネリ司祭(記)

6月の主な教会暦(主日・祭日など)
 7日(日) 三位一体の主日(祭)
 14日(日) キリストの聖体(祭)
 19日(金) イエスの心(祭)
 21日(日) 年間第12主日
 24日(水) 洗礼者ヨハネの誕生(祭)
 28日(日) 年間第13主日
 29日(月) 聖ペトロ使徒座への献金
 聖ペトロ使徒(祭)

教区行事予定 (*松浦司教)
 8日(金) 正義と平和委員会
 9日(土) 宣司評運営委員会/殉教者
 10日(日) 務原教会堅信式/一粒会
 11日(月) 樹の会
 12日(火) カリタス福祉委員会
 13日(水) 正義と平和学習会/樹の会
 16日(土) 総会/レジオ名古屋クリア
 17日(日) 城北B会議/難民委・イン

21日(木) ターナシヨナルミサ(中止)
 24日(日) 月集*
 28日(木) 城東B・わだちまつり(中止)
 30日(土) 委員集*
 31日(日) 城北ブロック堅信式(布池教会)*
 7日(日) 宣教司牧評議会/熱田教会
 11日(木) 教区顧問会/顧問会*
 12日(金) 正義と平和定例会
 13日(土) 松浦司教着座記念日/信徒
 14日(日) 協・信徒使徒職大会
 15日(月) 名古屋教区司祭研
 16日(火) 修会*
 20日(土) 樹の会/カトリック看護協
 21日(日) 殉教者定例会/共助連絡
 25日(木) 愛岐B会議/青年委員会/
 27日(土) 女子修道会在俗会連盟講演
 28日(日) 会/安城教会堅信式*
 28日(日) 司祭評議会*
 28日(日) 濃尾B会議/典礼委員会
 28日(日) 一粒会集(東海地区)*

教区行事以外の松浦司教予定
 5月
 14日(木) 常任司教委員会/子ども女
 19日(火) 性の権利擁護のためのデスク
 27日(水) 日本難民移住移動者委員会
 南山学園評議員会

告知板
 福信館便り ☎052(935)7180
 ◇5月の炊き出し 木7日布池
 14日南山・樹の会、21日聖霊・南山・
 樹の会、28日城北橋 金1日喜望
 の会、8日南山、15日A・J・U・恵方
 町、22日布池、29日江南

第3次人事異動(カルメル会) (3月27日付)
 金沢教会、小松教会
 主任司祭 九里彰
 助任司祭 ポンタツキョ チプリ
 アノ
 協力司祭 ザンケッタ ピエトロ
 全員金沢教会に居住
 三馬教会
 小教区管理者 古川利雅
 協力司祭 大瀬高司
 日比野教会、八熊教会
 主任司祭 古川利雅
 助任司祭 志村 武
 (宇治修道院より)
 協力司祭 大瀬高司
 その他
 七尾教会・輪島教会の主任司祭
 は引き続き窄口松雄神父ですが、
 2020年4月1日付けで、カ

めぐみカン
ガンバル!!
by あこ

コロナ禍
 前代未聞の
 閉ざされた
 ミサや礼拝
 動じない
 でもない
 通いな教会に
 毎週あえる
 通いな教会に
 強い信者は
 打たれぬ
 たうあえる

祈りつも
 祈りつも
 祈りつも
 祈りつも

な横十あ
 い木字れ
 ぞが架?
 の

よ機意宗私
 う会味敬た
 ながをすか
 気と考るが
 がえらる十
 がしられた
 架の

何教会とは
 何か...

集えない時間
 信仰を育む
 歩き続けよう

目ガイ復
 指リエ活
 してラス
 してヤが
 ...を待
 つ

建設費の返済に協力を
 618件 30,600,990円
 目標額 40,000,000円 (3月末)
 達成率 約76.5%

郵便振替 00810-5-50605
 加入者名 カトリック名古屋教区
 通信欄に「福信館建設」と必ず
 ご記入ください。

**「聖霊病院 春の聖書展」
 開催中止のお知らせ**
 例年5月に開催しています「聖
 霊病院春の聖書展」は、新型コ
 ロナウイルスの感染拡大に伴い、
 今年は開催を中止といたします。
 社会福祉法人聖霊会カトリック
 社会事業室
 名古屋市昭和区川名山町56
 ☎052-832-1181 Sr.村木

キリシタン史勉強会は中止
 政府から緊急事態宣言が発令さ
 れた。この状況に鑑み、6月21日(日)
 金沢教会と6月27日(土)主税町記念
 聖堂でのキリシタン史勉強会を中
 止いたします。事態のいち早い終
 息を願いつつ、マリア様のご保護
 が皆様の上にありますようお願い
 いたします。
 カトリック名古屋教区
 殉教者顕彰委員会
 委員長 浅井太郎

**名古屋教区本部事務局の
 取扱時間の変更**
 日本政府から緊急事態宣言が発
 令されました。名古屋教区本部事
 務局では、感染予防のため明日4月
 10日から緊急事態宣言発令期間中
 は教区本部の事務取扱を下記時間
 と致します。皆様にはご不便をお
 かけしますが、ご理解頂きますよ
 うお願いします。
事務取扱10:00~16:00
 カトリック名古屋教区本部
 事務局 事務局長平田政信

ルメル会から教区司祭へ1年間
 の移籍試行期間に入ります。人
 事、生活に関するすべてのこと
 は教区司祭と同じになります。
 なお、司祭の転居は4月中に行わ
 れ、5月1日の着任となる。

名古屋オルガンの春&秋2020のお知らせ
 注) 新型コロナウイルス感染拡大のため開催の有無は事前にオルガンの秋 HP
 で確認願います。または二宮音楽事務所まで問合せ下さい。

日 時 5月17日(日) 15:00開場 15:30開演
 プログラム「すべての種詩く人々へ」
 J.S.バッハ・平和と喜びのうちに私は行く BWV125 他

日 時 6月7日(日) 15:00開場 15:30開演
 プログラム「三位一体の神への賛美」
 M.ヴェッマン・おお幸なる光よ、三位一体の神 他

出演者 Org 吉田文、Th. マイヤー=フィービッヒ
 会場 カトリック五反城教会 名古屋市中村区二瀬町27
 交通 地下鉄東山線「岩塚」駅下車2番出口徒歩5分
 連絡 入場無料ですが、コンサート運営のために任意のご寄金をお願いいた
 します。

主にささげる24時間~聖体礼拝
 主税町記念聖堂では月に2回、聖体礼拝が行われています。
 開始時と終了時にミサが行われます。どうぞご参列ください。
 日 時 毎月第2・第4木曜日 木曜日19:00~金曜日19:00
 場所 主税町記念聖堂 名古屋市東区主税町3-33
 主催 カトリック名古屋教区
 問合せ 名古屋教区本部事務局 ☎052-935-2223
 責任者 平田政信神父 携帯電話 090-1623-1170

聖パウロ書院からお知らせ
ロザリオの祈り
 5月10日(日) 14時~(40分程度)

読書会
 毎月第3土曜日 14:00~15:30
 次回は5月16日(土)
 図書『祈り その小道を歩く』
 須永和宏 著
 どなたでも参加できます。

**名古屋オルガンの秋 presents
 パイプオルガンランチコンサート**
 Toccata! Toccata! Toccata! ~花火の様に絢爛に

日 時 6月10日(水) 10:00開場 10:30開演
 会場 愛知県芸術劇場コンサートホール
 プログラム Ch.M. ヴィドール・交響曲第5番より、お客様からのリクエスト曲、
 他リクエストを募集中、チラシをご覧ください

出演者 Org 吉田文
 入場料 1,000円
 以上2件の問合せは二宮音楽事務所
 ☎052-505-0151 HP http://organaki.exblog.jp/

「樹の会」総会のご案内
 日 時 5月16日(土)
 13:30から
 会場 カトリック膳棚教会
 名古屋市瑞穂区膳棚町1-26-2
 交通 地下鉄桜通線「瑞穂運動場西」
 駅下車徒歩3分
 △予定していた講演会は中止となりました。
 問合せ 樹の会事務局
 ☎ 090-5107-0644 平尾

初土曜日・ロザリオの集い
 日 時 毎月第1土曜日 13:00~
 場所 カトリック押切教会 名古屋市西区名西1
 司 祭 島袋幹男神父、他
 スケジュール
 13:00~ 聖体賛美式・告解・ロザリオの祈り
 14:00~ ミサ
 15:00~ 聖母マリアの汚れなき心への奉獻の祈り
 15:30~ お茶タイム
 主催 ロザリオの集いの会
 問合せ 高木光男 ☎090-5451-4775